

白山の火山活動解説資料（令和3年9月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

21日、白山の山頂付近のやや深部を震源とする地震が一時的に増加しました。その後、地震回数は少ない状態で経過し、火山活動の活発化を示す変化は認められていません。

噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図1）

白峰監視カメラ（白山山頂の西約12km）による観測では、山頂部に噴気は認められません。

・ 地震や微動の発生状況（図3～4）

21日、白山の山頂付近のやや深部を震源とする地震が一時的に増加しました。21日の地震回数は163回で、最大の地震の規模（マグニチュード）は1.6（暫定値）でした。その後の地震活動は低調に経過しました。

白山では、これまででも一時的な地震の増加が時折発生しており、今回も同様の活動とみています。火山活動の活発化を示す山頂付近ごく浅部の地震や、火山性微動は観測されていません。



図1 白山 山頂部の状況
(9月10日 白峰監視カメラによる)

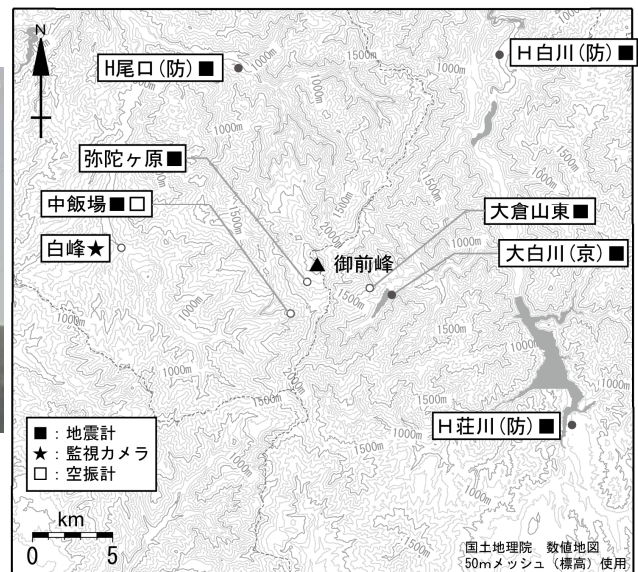


図2 白山 観測点配置図

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php) でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（令和3年10月分）は令和3年11月9日に発表する予定です。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、東京大学、京都大学、名古屋大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています。

【計数基準の変遷】
 開始 2005年12月1日～2011年9月30日：弥陀ヶ原上下動振幅 1.0 μm/s、S-P 時間 1.5 秒以内
 変更① 2011年10月1日～2014年9月18日：中飯場 上下動振幅 1.0 μm/s、S-P 時間 1.7 秒以内
 変更② 2014年9月18日～2021年5月17日：弥陀ヶ原上下動振幅 1.0 μm/s、S-P 時間 1.5 秒以内
 変更③ 2021年5月17日～2021年7月26日：中飯場 上下動振幅 1.0 μm/s、S-P 時間 1.7 秒以内
 変更④ 2021年7月26日～：弥陀ヶ原上下動振幅 1.0 μm/s、S-P 時間 1.5 秒以内

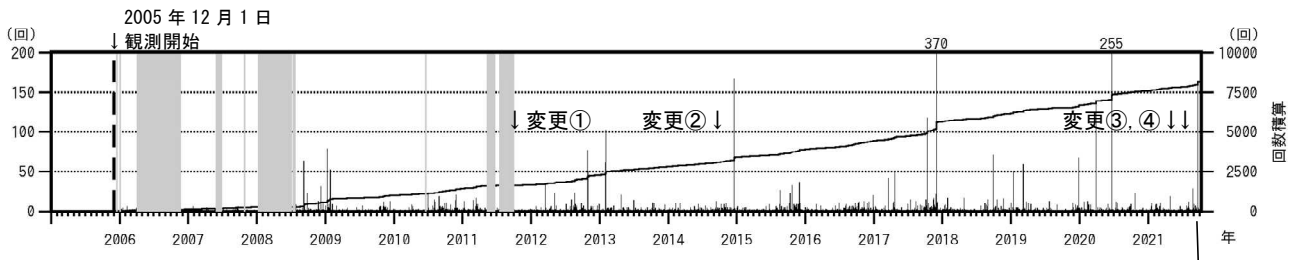


図3 白山 日別地震回数と積算回数（2005年12月1日～2021年9月30日）
 図の灰色部分は機器障害による欠測期間

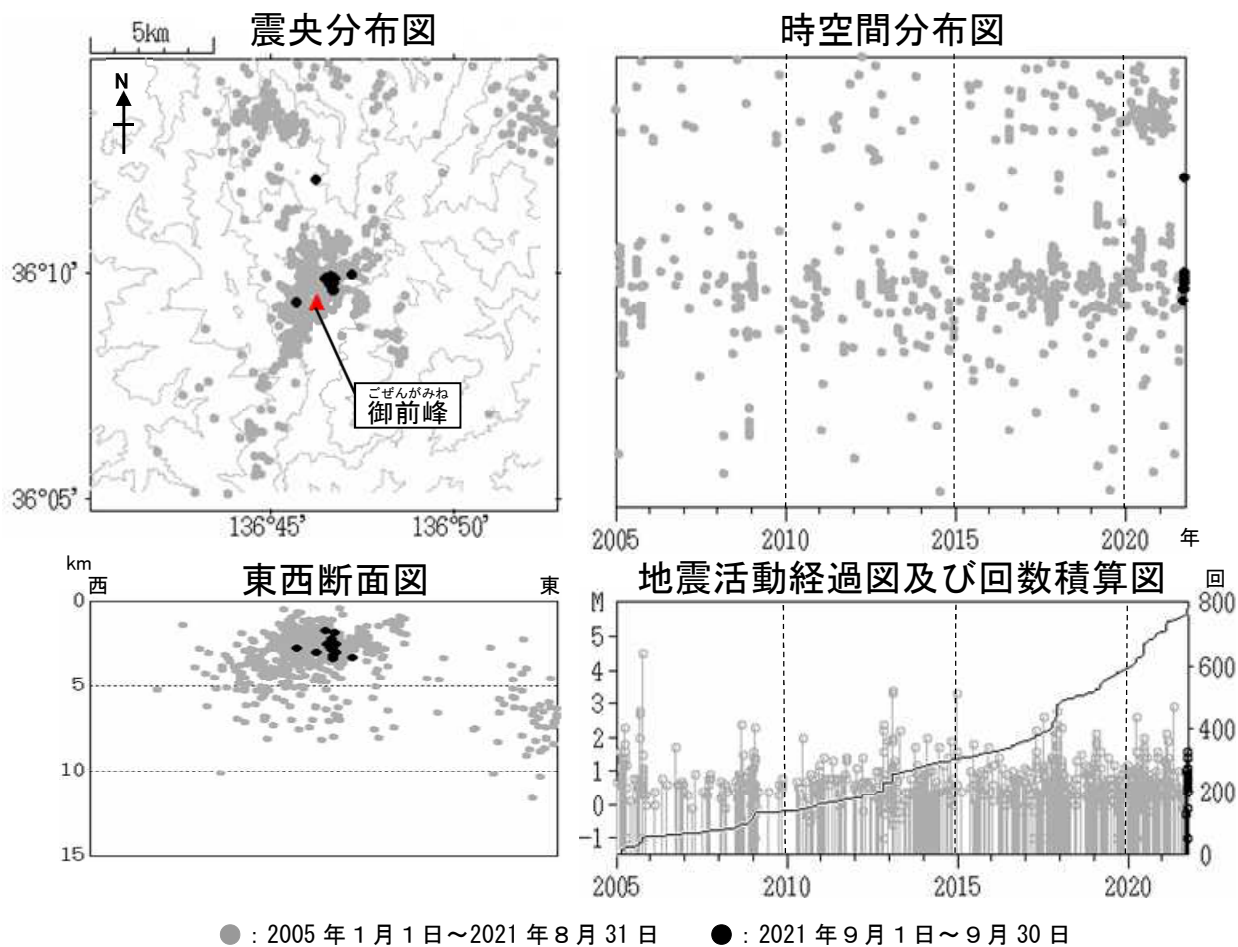


図4 白山 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2005年1月1日～2021年9月30日）

広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。
 M（マグニチュード）は地震の規模を表します。
 図中のマグニチュード、震源位置は暫定値で、後日、変更することがあります。
 この図では、関係機関の地震波形を一元的に処理し、地震観測点の標高を考慮する等した新手法で得られた震源を用いています（ただし、2020年8月以前の地震については火山活動評価のための参考震源です）。
 2021年10月8日現在、次の期間の地震について、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、その前後の期間と比較して微小な地震での震源決定数の変化（増減）が見られます。
 ①2020年9月1日から10月23日まで、②2021年1月9日から3月7日まで、③2021年4月19日以降

・21日に増加した地震の震源は、山頂付近の深さ3 km 前後に分布し、これまでも地震活動がみられている領域でした。